

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 2 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく願います。

記

1 情報の内容 斑点米カメムシ類防除の徹底について

2 対象作物 水稻（早期）

3 発生の現状

- （1）県内 6 か所の予察灯における誘殺数は、平年に比べ 6 か所中 5 地点で多くなっている（図 1～6）。
- （2）6 月に行った定点調査（早期）における捕虫網による 20 回掬い取り調査でも、発生圃場率が本田、畦畔とも過去 10 年間で最も高くなっている（図 7、図 8）。
- （3）主な発生種は、予察灯ではアカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシで、本田、畦畔ではクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシとなっている。また、南予ではイネカメムシの発生が多い場所も見られる。
- （4）四国地方の 1 か月予報（令和 7 年 7 月 10 日発表）では、平均気温は高い、降水量は平年並の見込みとされており、発生にやや助長的である。

4 防除上の注意等

- （1）圃場周辺の除草を徹底する。ただし、出穂直前の除草はカメムシ類を圃場内に追い込む可能性があるため、出穂 15 日前までに行う。
- （2）出穂期の定期防除で圃場密度を下げ、乳熟期～糊熟期（出穂後 10～15 日）に追加防除を実施する。それでも発生が減らない場合は、追加防除の 7～10 日後に再度防除を行う。
- （3）イネカメムシは出穂直後の穂を好み、不稔を生じさせるため発生地域では出穂期防除を必ず行う。また、周囲よりも出穂が早いあるいは遅い圃場は集中加害を受ける可能性があるため必要に応じて早期に防除を行う。
- （4）ミナミアオカメムシやクモヘリカメムシ、イネカメムシは、本田内でも繁殖し、斑点米の産出能力も高いため、登熟後期まで被害が続く。このため、防除実施後も発生状況には注意する。
- （5）要防除水準は、穂揃期～乳熟期の捕虫網による 20 回掬取り個体数において、大型種で 1 頭、小型種で 3 頭である。

○予察灯による斑点米カメムシ類の誘殺数の推移

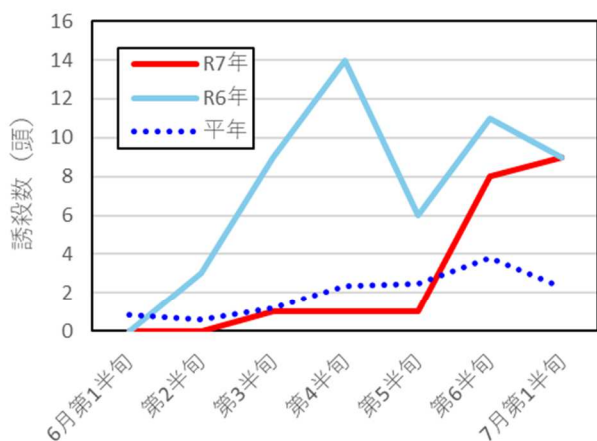


図1 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、西条）

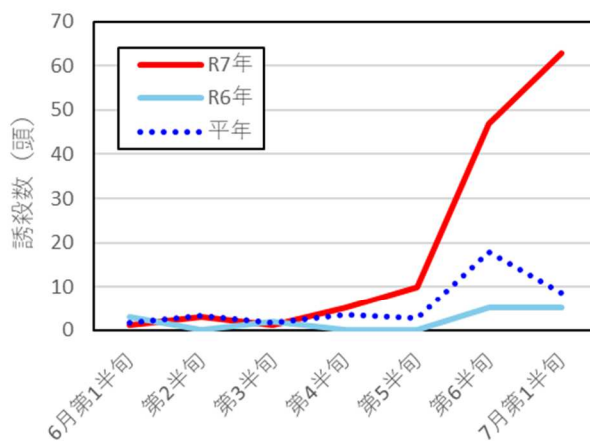


図2 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、松山）

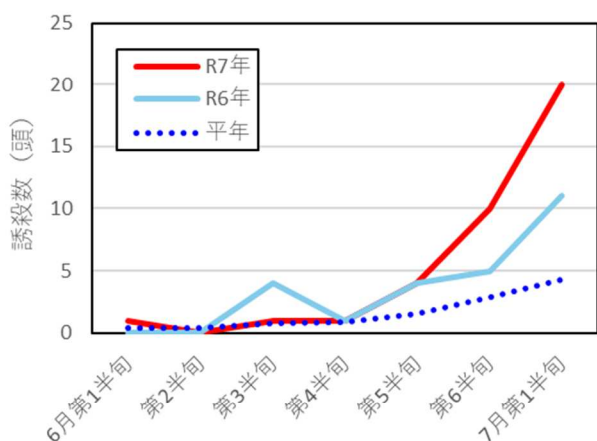


図3 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、松前）

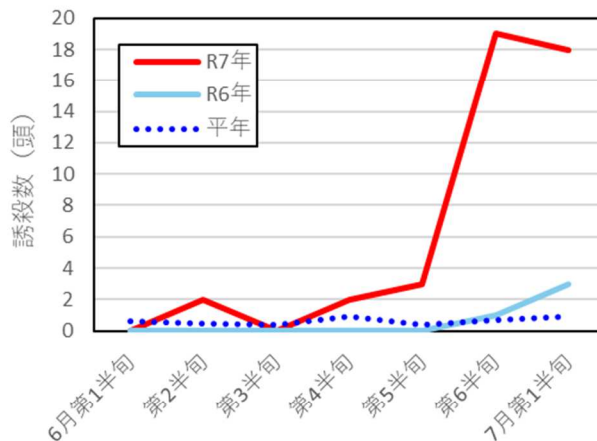


図4 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、久万）

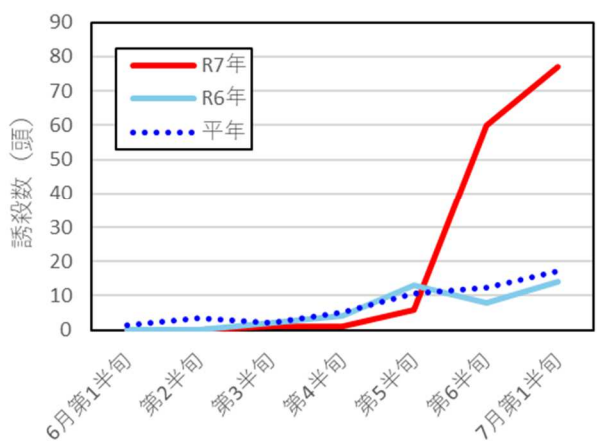


図5 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、西予）

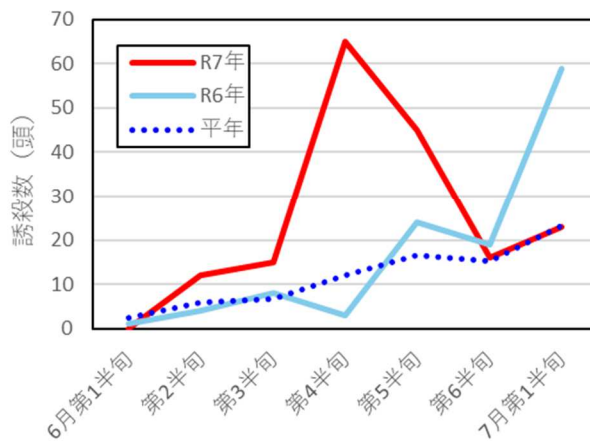


図6 斑点米カメムシ類誘殺数（予察灯、愛南）

○定点調査における斑点米カメムシ類の発生圃場率（6月）

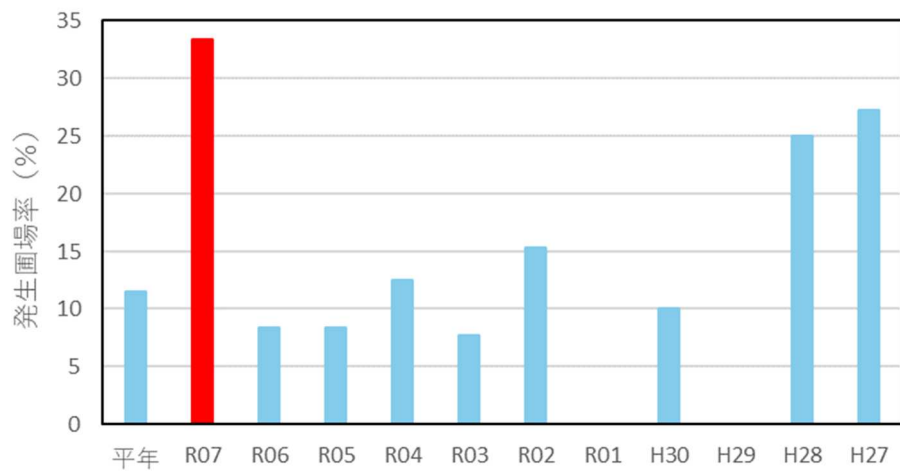


図7 早期水稲における斑点米カメムシ類発生圃場率（本田）

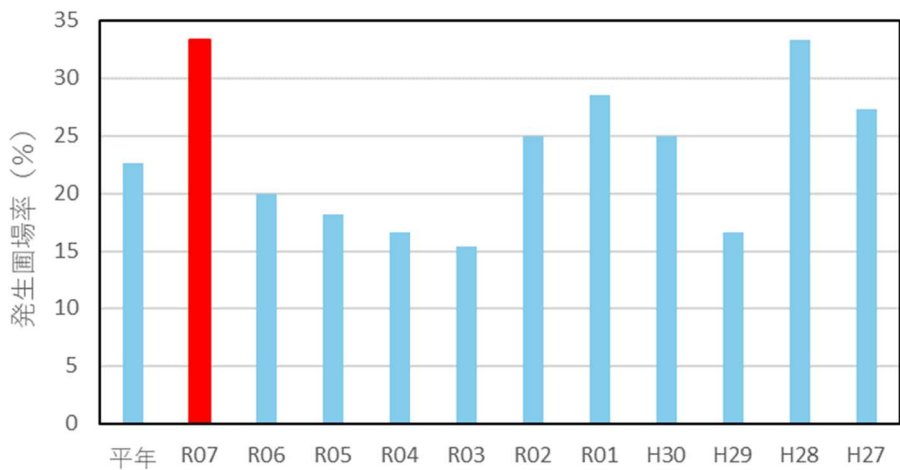


図8 早期水稲における斑点米カメムシ類発生圃場率（畦畔）